

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を实践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	147110013932
法人名	社会福祉法人 百鷗
事業所名	グループホーム 葉山の里
訪問調査日	平成22年9月24日
評価確定日	平成22年10月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	147110013932	事業の開始年月日	平成15年12月1日	
		指定年月日	平成15年12月1日	
法人名	社会福祉法人 百鷗			
事業所名	グループホーム 葉山の里			
所在地	(240-0113)			
	神奈川県三浦郡葉山町長柄253-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成22年8月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月13日	
			ユニット数	2 ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との、ふれあいを大切にしながら、個人、個人の持っている可能性を引き出し、気長に根気良く、その人らしい過ごし方を継続して頂き、職員も楽しみながら、自立支援に日々取り組んでいます。とにかく、皆様自己主張が出来て明るくお元気な方達で、常に笑い声が聞かれるホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2 F		
訪問調査日	平成22年9月24日	評価機関 評価決定日	平成22年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①ホームの経営母体は社会福祉法人百鷗で、JR逗子駅からバスで10分位の住宅地にある。社会福祉法人百鷗は地元葉山と逗子に特養葉山清寿苑、特養逗子清寿苑を中心にショート、デイ、居宅介護、そして2つのグループホームを展開し、地域福祉のネットワークを形成し、「地域に開かれた事業体として社会に貢献する」ことを理念に地域福祉の中核となっており、グループホーム葉山の里はその一翼を担っている。地域の人達は介護が必要な時期になると、清寿苑のショートやデイを利用し、介護度、認知症が進むと特養又はグループホームなどを選択し自然な形で入居することが出来る。馴染みながらのサービス選択や地域との密着性で理想的な体制が確立出来ている。ホームの方針は「同じ土地で年老いて、安心して、当たり前、ゆったりと過ごせ、外に出れば知り合いに逢える」そんなホームを目指している。
 ②所長は利用者と一緒につるし雛、和装小物、はり絵、押し絵、ちぎり絵の製作を開始して1年半、手工芸連盟が中心に行う葉山町の文化展に百鷗グループとして出展する迄になった。目標を持った利用者の方々は生き生きとして製作に励んでいる。1年半前に所長として取り組んだ3点は(1)利用者さんのADL維持の為に、リビングで過ごすのが楽しくなるよう工夫をし、手仕事、レク、毎日欠かさぬ散歩などで活性化と筋力が低下させないこと。(2)職員の研修では、自らが学びたい意欲を起こさせる事と、重度化に伴う介護技術の向上への取り組み。(3)情報の共有化については、情報ノートの活用と、見たら必ずサインする事の徹底から、共通認識が出来る体制を推進を目指したが、徐々にその成果が現れ、活気溢れるホームへと進化している。
 ③毎月お送りするお便り内容を向上させ、お便りの中に介護記録を折込み、食欲、睡眠、活動、健康、排泄等に付きお知らせし、ご家族からの連絡事項をFAXで送り返し頂ける工夫を施し、ご家族との情報の共有に努めている。このホームの管理者・職員にハートがあり、これから素晴らしいものが出来上がっていく期待感がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 葉山の里
ユニット名	一色

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ実践している。地域の方たちと、コミュニケーションを持ち理念を共有して実践している。今後は地域の方のボランティアを受け入れていきたい。	社会福祉法人百鷗として理念は年度事業計画、事業所の事業計画に必ず掲載され、最低でも1年に1度は理念について再確認がされている。特に法人としては接遇に力を入れ、年度研修計画に組み込み、最低年2回は実施し、更にホーム内研修、3分間レクチャーにより職員の資質の向上と均一化を図っている。地域にも法人の理念を理解して頂き、共に高齢者ケアに努めていきたい。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切にし、町内会に入り、月1回定例会、ふれあいサロンに出席して地域の方々との交流を図りながら日常的にも支援をいただいている。ご近所とのつきあいをしており、使い捨てのタオルを届けて頂いたり、缶詰や野菜等も差し入れもあります。今後は近所の方が気軽に立ち寄れるホームにしていきたい。	この地域は町内会活動が盛んな地域であり、町内会に加入し、月1回定例会、ふれあいサロンに出席して地域の方々との交流を図りつつ、日常的な支援を頂いている。ご近所とのつきあいをしており、使い捨てタオルを届けて頂いたり、缶詰や野菜等も差し入れも頂いている。手工芸連盟が中心に行う葉山町の文化展には百鷗グループとして、このホームからも作品を出展出来るまでになってきた。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合に出席した際に苑の情報をお伝えしたり、タオルや使いふるした下着類の寄付をいただいたり、近所の引越しの際に出た不用品の件で情報連絡があります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回実施（活動状況、職員人事、待機者説明、面会状況、事故発生状況、稼働率）の報告をし、会議終了後次回の検討課題や意見を伺いサービス向上に生かしている。今年度は21. 8、1（土）21. 12. 12（土）22. 3. 13（土）22. 7. 17.（土）に開催。	年3回実施（活動状況、職員人事、待機者説明、面会状況、事故発生状況、稼働率）の報告を行ない、会議終了後次回の検討課題や意見を伺いサービス向上に生かしている。メンバーは民生委員を中心に町役場の職員、ご家族、利用者それにホーム職員で行っている。町内会は町内会の会合に必ず出席し、話す機会を頂き非常に良い連携がとれている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の意見を聞いたり情報交換を行っている。7月17日運営推進会議実施。今後も情報交換していきたい。更に年1～2回勉強会を開催していただけたらあり難い。	市町村担当者の意見を聞いたり情報交換を行っている。社会福祉法人百鷗の展開する特養葉山清寿苑、グループホーム2つは葉山町の高齢者施設の中心であり、葉山町も頼りにしているので車の両輪のように良い関係が維持されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	21年度はやむなく期間を決めて身体拘束を行いました。本来拘束をしないケアに取り組んでいます。今後も、「利用者や家族が安心して」生活できる環境（拘束のない）を作って行きたい。	拘束による弊害については充分徹底され、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵については安全のため手薄な時は施錠している場合もあるが、事務所に人がいる時は開けておくようにし、閉塞感の無いケアの実現に努めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがないように、朝のミーティングや会議の時に確認し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修会等に参加している。会議等で成年後見制度について学んでいきたいと検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、その都度疑問や不安な部分がないか尋ね、十分納得していただけるように取り組んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、家族や利用者との、信頼関係を作るように心がけ、家族の来訪時は日頃の暮らしぶりを伝えたり、介護内容記録を1ヶ月に1度送付して、ご家族様に近況報告や身体状況（全ての）、小口出納、行事予定等をお知らせして、家族等の意見を反映している。今後年1回里便りを発行できたら良いと思っている。	利用者の意見に関しては、出来る事はやってもらう方針であり、例えば人形作り、織物の張り合わせなど、認知症だから出来ない決め付けず、興味を示したら、下ごしらえしたものをやってもらい、出来たことで意欲を持ち、昔の記憶も蘇り、素晴らしい作品となる等、潜在能力の呼び起こしによる喜びを生活に生かしていて素晴らしい。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議等で運営に関する職員の意見を聞いたりアンケートを実施し、理事長出席の場を設け意見や提案を聞き業務に反映させている。	業務改善のアンケートを職員に実施し、集約した。その中で日中3人体制では十分なケアが出来ないとの集約に対し、理事長から回答があり日中4人体制が実現した。会議では出席したら1回は必ず発言するなど積極的な参加を促している。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現理事長は職場環境や職員の現状を良く聴き整備に努めています。又職員が向上心を持つ事に関し奨励しています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングをして行く事を進めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修などの機会に同業者との交流や逗子・葉山の6事業所間で、2ヶ月に1回定期的に勉強会やネットワーク作りを行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず本人が困っている事や不安に感じている事に耳を傾け、安心が確保できるような関係づくりに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事等を話しやすい雰囲気作りに努め良い関係が作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と欲話し合い、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係をより良い方向にするように心がけ、共に共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に明るく家族と接し、ご本人と家族の出会いを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や、今までの関係が続けられるよう本人の話を良く聴きながら途切れないように、年賀状や季節ごとの挨拶状等を出されている。電話や手紙のやり取り等も自由に連絡をとったり、ホームへの面会や時間帯も自由にしていたりしている。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、これまでの本人との関係が続けられるように、話を良く聴き支援に努めている。利用者は、年賀状や季節毎の挨拶状等を出したりしている。また、電話の連絡やホームへの面会、時間帯も自由にして支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	違いがあっても、理解しあって、毎日が楽しく、暮らして頂けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、関係を断ち切らない取り組みを継続し、相談支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望や意見を聞かせて頂き、極力本人の希望に沿うように支援している。	利用者の希望や意見を聴き、本人の意向の把握に努めている。言葉に表せない人の動作、表情、意思を汲み取り極力、その人の気持ちになって考えてあげるよう促がしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人より聞かせて頂いたり、記録に目を通しこれまでの暮らしが継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人一人の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等でそれぞれの意見を聞きながら、話し合いご本人や家族の意見を反映し現状に即した介護計画を作成するよう努力している。会議へのご家族の参加も検討していきたい。	介護計画は縦型に、アセスメント概要は左に基本的なチェック表を、右に18項目の項目を置き、常に項目別にモニタリングしやすい書式を記入し、会議等でそれぞれの意見を聞きながら、話し合いご本人や家族の意見を反映し、現状に即した介護計画を作成するよう努力している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら、記録物も見やすいように改正したりして実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応しながら、ご家族や利用者に合わせてサービスを提供するよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを持続出きるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との良い関係づくりが出来ており、情報交換を怠らず適切な医療を受けられるよう支援している。また、かかりつけ医にとらわれず、本人、家族が信頼できる、医師に診て頂き適切な医療を受けられるようにも支援している。	医療連携体制は取っておらず、医療的な必要性があれば特養へのルートも考えつつ法人のノウハウを有効活用する体制としている。かかりつけ医（往診医）は6医院あり連携を取り、良い関係づくりが出来ている。情報交換を怠らず適切な医療を受けられるよう支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や往診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談にはこまめに対応して、良い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の際、重度化した場合の家族の意向を伺い、必要に応じて法人としての方針を説明、事業所で出来る事を十分に説明しながらチームで支援に取り組んでいる。月1回、法人全体で入退所検討委員会を開催、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の意向を、入所時、ご家族に伺っている。必要に応じて法人としての方針と事業所で出来る事を説明し、チーム体制で支援に取り組んでいる。月1回、法人全体で入退所検討委員会を開催し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が初期対応の訓練を行っていないのが現状。新人職員が半数を占めているので今後は、訓練を定期的行って実践力を身につけるよう努力していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制が絶対に必要な為、今年度は9月に地域住民参加の防災訓練を実施予定している（年2回実施）又災害時や地震の際の避難方法や備蓄等も検討課題にしている。地域の協力体制を築き今年度中に消防署の協力を得ながら防災訓練実施を計画。	地域の協力体制を築き、今年度、9月に地域住民参加の防災訓練の実施予定がある。（年2回実施）町内会からは2名が参加予定となっている。災害時や地震に備え、避難方法や備蓄等に関して検討課題にしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し言葉使いや接遇に対して全職員で研修を受け対応している。言葉かけや気配りに注意をはらい、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。職員一人一人が法人の顔である事を理解し、対応するように努めている。	利用者の人格を尊重し、言葉遣いや接遇に対して、全職員で研修を受け対応に努めている。職員一人ひとりが法人の顔である事を理解し、言葉かけや気配りに注意をはらい、本人の誇りやプライバシーを損ねないように対応するように努めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然な環境の生活を常に心がけ、希望が叶えられるよう努力し、自己決定が自然に出来るように色々な方法を考えて働きかけている。	/		/
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、出来る限り希望に沿うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着用したい衣類を聞いたり、季節に合ったものを伺っている。身だしなみに意識がいかない利用者が多くなっているが、その人らしい身だしなみやおしゃれが失われないようサポートしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事委員会で話し合ったり、「お食事アンケート」を実施している。炊事は介護職員にとっても交流を深める手段なので大いに参加していただいています。皆様に実際にやっていただくと、びっくりするくらい器用なので驚きます。	食事を楽しむことのできるよう、食事委員会で話し合ったり、「お食事アンケート」を実施して努めている。炊事を通し、職員と交流を深められるよう参加して頂いている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し確保出きるよう支援している。一人一人の状態を把握して栄養バランスや水分量にはつねにチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた口腔ケアを行ったり、嚥下体操を継続している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、皮膚状態を観察したり、排泄介助や声かけ、誘導を行い自立支援を促している。個々の排泄パターンを把握し、チェック表等で支援を行っている。排泄介助の際にはできるかぎりプライバシーに注意して支援している。	職員は、一人ひとりの排泄状況を把握し、皮膚状態の観察や、プライバシーに配慮しながら排泄介助、声かけを行い、自立に向けた支援をしている。個々の排泄パターンはチェック表等で支援を行っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防（水分摂取、食事、運動、環境）と便秘になった時の対応（腹部マッサージ、水分摂取、下剤等）に努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しくくつろいで入浴出きるよう、個々に応じた支援を行っている。どうしても入浴したくない方には時間をずらしたり、翌日に入って頂いたりバラ風呂やハーブ湯で気分転換をしていただいている。リラックスして入浴出きるような環境作りとゆったりした気分で入浴して頂けるよう支援している。	利用者が楽しく寛いで入浴して頂ける様、一人ひとりに応じた支援を行っている。また、臨機応変に時間をずらしたり、翌日に入って頂く等、バラ風呂やハーブ湯等で、気分転換を図れる工夫に努めている。基本的に、リラックスして入浴して頂ける環境作りとゆったりした気分で入浴して頂ける支援をしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も個々の利用者により異なり眠りたい時に、安心して気持ち良く眠って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを作成職員全員で把握している。連絡帳に個々の利用者の薬の変更等を書き職員全員で把握出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意見や希望を聴き皆さんが楽しい日々を送れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	希望に沿うような行動計画を立てたり、その日の希望を聴きながら、職員同行により理髪店及びクリーニング店などにいかれている。又町内会主催のふれあいサロンなどにも出かけている。散歩も毎日同じ道を歩くのではなく、利用者の希望を聴いてコースを変えている。時折花屋によりお花を楽しんだり、コンビニに寄り、お菓子を選んだりされている。	外出支援について、本人の希望に沿うよう行動計画を立て、その日の希望を聞き、職員同行にて理髪店やクリーニング店等に出かけている。また、町内会主催のふれあいサロン等にも出かけている。散歩については、毎日同じコースではなく、利用者の希望に合わせてコースを変えたりしている。散歩途中、花屋で季節の花を楽しんだり、コンビニでお菓子を選ぶ等、戸外を楽しめる支援をしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じて所持して頂いて買い物飲食で使って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話したり書中見舞いや年賀状など絵を描いたり自由に表現され支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を採り入れ居心地良く過ごして頂くよう工夫している。光の調整、緑の木々、木漏れ日等1日の移り変わりの様を体感出きるよう心がけています。季節感を感じて頂けるように玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段等には手作りの和小物やタペストリー利用者の手作り品を飾り居心地の良い共用空間を作り生活を楽しんで頂いている。利用者の手作り品を歳時記で楽しめるようにしていきたい。	共有空間では、光の調整や自然の感性をふんだんに取り入れ一日の移り変わりを体感出きるように配慮している。また、季節感や生活感を取り入れ、利用者が居心地良く過ごせる工夫に努めている。玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段等には、手作りの和小物やタペストリーや利用者の手作り品が飾られ、来る者にも居心地の良い共用空間を感じさせ、利用者が生活を楽しめる演出が施されている。特徴として、利用者の手作り品を歳時記で楽しめる等の工夫がある。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが自由な自然な生活が送れるよう工夫している。特に夕食後は思い思いに違うお席でテレビを見たり、男娯して頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が長年使って来られた物を居室に置かれ居心地良く過ごして頂いている。日光が強く指す時間帯には室温に注意し、すだれやカーテンにより調整しています。又テレビ等も個々に見たい番組も見られています。使い慣れたものを活かしたり、自分の好みのものを飾ったりして過ごされている。	長年使用された大切な物を居室に置き、自分の好みのものを飾ったりして、本人が心地よく過ごせるよう配慮している。日当たり具合により居室の室温に注意し、遮光調整にも工夫をし、居心地良く過ごせるよう配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を活かし、安全で安心できる環境づくりに努めている。手摺うをなるべく使用して頂き、自ら行きたい所へ行ける様に見守りしている。		

事業所名	グループホーム 葉山の里
ユニット名	森戸

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ実践している。地域の方たちと、コミュニケーションを持ち理念を共有して実践している。今後は地域の方のボランティアを受け入れて行きたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切にし、町内会に入り、月1回定例会、ふれあいサロンに出席して地域の方々との交流を図りながら日常的にも支援をいただいている。ご近所とのつきあいをしており、使い捨てのタオルを届けて頂いたり、缶詰や野菜等も差し入れもあります。今後は近所の方が気軽に立ち寄れるホームにしていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合に出席した際に苑の情報をお伝えしたり、タオルや使いふるした下着類の寄付をいただいたり、近所の引越しの際に出た不用品の件で情報連絡があります。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回実施（活動状況、職員人事、待機者説明、面会状況、事故発生状況、稼働率）の報告をし、会議終了後次回の検討課題や意見を伺いサービス向上に生かしている。今年度は21. 8、1（土）21. 12. 12（土）22. 3. 13（土）22. 7. 17.（土）に開催。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の意見を聞いたり情報交換を行っている。7月17日運営推進会議実施。今後も情報交換していきたい。更に年1～2回勉強会を開催していただけたらあり難い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	21年度はやむなく期間を決めて身体拘束を行いました。本来拘束をしないケアに取り組んでいます。今後も、「利用者や家族が安心して」生活できる環境（拘束のない）を作って行きたい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがないように、朝のミーティングや会議の時に確認し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修会等に参加している。会議等で成年後見制度について学んでいきたいと検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、その都度疑問や不安な部分がないか尋ね、十分納得していただけるように取り組んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、家族や利用者との、信頼関係を作るように心がけ、家族の来訪時は日頃の暮らしぶりを伝えたり、介護内容記録を1ヶ月に1度送付して、ご家族様に近況報告や身体状況（全ての）、小口出納、行事予定等をお知らせして、家族等の意見を反映している。今後年1回里便りを発行できたら良いと思っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議等で運営に関する職員の意見を聞いたりアンケートを実施し、理事長出席の場を設け意見や提案を聞き業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現理事長は職場環境や職員の現状を良く聴き整備に努めています。又職員が向上心を持つ事に関し奨励しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングをして行く事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修などの機会に同業者との交流や逗子・葉山の6事業所間で、2ヶ月に1回定期的に勉強会やネットワーク作りを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず本人が困っている事や不安に感じている事に耳を傾け、安心が確保できるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事等を話しやすい雰囲気作りに努め良い関係が作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と欲話し合い、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係をより良い方向にするように心がけ、共に共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に明るく家族と接し、ご本人と家族の出会いを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や、今までの関係が続けられるよう本人の話を良く聴きながら途切れないように、年賀状や季節ごとの挨拶状等を出されている。電話や手紙のやり取り等も自由に連絡をとったり、ホームへの面会や時間帯も自由にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	違いがあっても、理解しあって、毎日が楽しく、暮らして頂けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、関係を断ち切らない取組みを継続し、相談支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の希望や意見を聞かせて頂き、極力本人の希望に沿うように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人より聞かせて頂いたり、記録に目を通しこれまでの暮らしが継続出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、一人一人の現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等でそれぞれの意見を聞きながら、話し合いご本人や家族の意見を反映し現状に即した介護計画を作成するよう努力している。会議へのご家族の参加も検討していきたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら、記録物も見やすいように改正したりして実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応しながら、ご家族や利用者に合わせてサービスを提供するよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを持続出きるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との良い関係づくりが出来ており、情報交換を怠らず適切な医療を受けられるよう支援している。また、かかりつけ医にとらわれず、本人、家族が信頼できる、医師に診て頂き適切な医療を受けられるようにも支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者が適切な受診や往診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談にはこまめに対応して、良い関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の際、重度化した場合の家族の意向を伺い、必要に応じて法人としての方針を説明、事業所で出来る事を十分に説明しながらチームで支援に取り組んでいる。月1回、法人全体で入退所検討委員会を開催、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が初期対応の訓練を行っていないのが現状。新人職員が半数を占めているので今後は、訓練を定期的行って実践力を身につけるよう努力していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制が絶対に必要な為、今年度は9月に地域住民参加の防災訓練を実施予定している（年2回実施）又災害時や地震の際の避難方法や備蓄等も検討課題にしている。地域の協力体制を築き今年度中に消防署の協力を得ながら防災訓練実施を計画。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し言葉使いや接遇に対して全職員で研修を受け対応している。言葉かけや気配りに注意をはらい、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。職員一人一人が法人の顔である事を理解し、対応するように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自然な環境の生活を常に心がけ、希望が叶えられるよう努力し、自己決定が自然に出来るように色々な方法を考えて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、出来る限り希望に沿うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が着用したい衣類を聞いたり、季節に合ったものを伺っている。身だしなみに意識がいかない利用者が多くなっているが、その人らしい身だしなみやおしゃれが失われないようサポートしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事委員会で話し合ったり、「お食事アンケート」を実施している。炊事は介護職員にとっても交流を深める手段なので大いに参加していただいています。皆様に実際にやっていただくと、びっくりするくらい器用なので驚きます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し確保出きるよう支援している。一人一人の状態を把握して栄養バランスや水分量にはつねにチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた口腔ケアを行ったり、嚥下体操を継続している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、皮膚状態を観察したり、排泄介助や声かけ、誘導を行い自立支援を促している。個々の排泄パターンを把握し、チェック表等で支援を行っている。排泄介助の際にはできるかぎりプライバシーに注意して支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた予防（水分摂取、食事、運動、環境）と便秘になった時の対応（腹部マッサージ、水分摂取、下剤等）に努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しくくつろいで入浴出きるよう、個々に応じた支援を行っている。どうしても入浴したくない方には時間をずらしたり、翌日に入ってもらったりバラ風呂やハーブ湯で気分転換をしていただいている。リラックスして入浴出きるような環境作りとゆったりした気分で入浴して頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も個々の利用者により異なり眠りたい時に、安心して気持ち良く眠って頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノートを作成職員全員で把握している。連絡帳に個々の利用者の薬の変更等を書き職員全員で把握出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意見や希望を聴き皆さんが楽しい日々を送れるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	希望に沿うような行動計画を立てたり、その日の希望を聴きながら、職員同行により理髪店及びクリーニング店などにいかれている。又町内会主催のふれあいサロンなどにも出かけている。散歩も毎日同じ道を歩くのではなく、利用者の希望を聴いてコースを変えている。時折花屋によりお花を楽しんだり、コンビニに寄り、お菓子を選んだりされている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量に応じて所持して頂いて買い物飲食で使って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話したり書中見舞いや年賀状など絵を描いたり自由に表現され支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を採り入れ居心地良く過ごして頂くよう工夫している。光の調整、緑の木々、木漏れ日等1日の移り変わりの様を体感出きるよう心がけています。季節感を感じて頂けるように玄関入り口には季節の花々、玄関内や階段等には手作りの和小物やタペストリー利用者の手作り品を飾り居心地の良い共用空間を作り生活を楽しんで頂いている。利用者の手作り品を歳時記で楽しめるようにしていきたい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんが自由な自然な生活が送れるよう工夫している。特に夕食後は思い思いに違うお席でテレビを見たり、男娯して頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が長年使って来られた物を居室に置かれ居心地良く過ごして頂いている。日光が強く指す時間帯には室温に注意し、すだれやカーテンにより調整しています。又テレビ等も個々に見たい番組も見られています。使い慣れたものを活かしたり、自分の好みのものを飾ったりして過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を活かし、安全で安心できる環境づくりに努めている。手摺うをなるべく使用して頂き、自ら行きたい所へ行ける様に見守りしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 葉山の里

作成日

平成22年9月24日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		研修が定期的に行われていない	年間研修計画の作成	毎月研修日を決めて継続していく(短時間でも可)	6ヶ月
2	34	急変や事故発生時の所期対応	職員全員が初期対応できるように実践力を身に付ける	応急手当や初期対応を身に付けられるように訓練していく	6ヶ月
3		防災訓練に地域住民の参加訓練としていない	今後は地域住民の参加を呼びかけ地域協力体制を充実していきたい	日頃からグループホームの情報を共有して、より地域住民との交流を図っていきたい	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。